

公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会  
第2回議事録

日 時：平成22年9月24日（金）  
13時30分～15時40分  
場 所：市役所 2階 第1会議室

次第

【司会：寺嶋政策調整課課長】

1. あいさつ
2. 公共施設におけるユニバーサルデザインサインマニュアルについて
3. その他

配布資料

1. 公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会  
次第
2. 公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会  
出席者名簿
3. 公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会  
第1回議事録
4. 大垣市ユニバーサルデザイン・サインマニュアル素案

出席者

【有識者】

鈴木 誠 岐阜経済大学経済学部教授・地域連携推進センター長  
松本 英三 大垣女子短期大学デザイン美術科学科長・教授  
車戸 慎夫 株式会社車戸建築事務所代表取締役・大垣商工会議所まちづくり特別委員会委員長  
加藤 周三 株式会社加藤周三デザインプロダクト代表者（社）日本グラフィックデザイナー協会会員  
曾川 大 ユニバーサルデザイン・コンソーシアム事務局長・株式会社ユーディ・シー取締役

【大垣市】

大江 英 企画部長  
寺嶋 太志 企画部政策調整課長  
堀本 直紀 企画部政策調整課主査  
井納 由紀 企画部政策調整課主事

森 憲 司 総務部契約課長補佐兼管財係長  
奥村 公彦 都市計画部建築課長補佐兼建築係長  
後藤 威博 教育委員会事務局文化振興課文化振興係長

## 発言録

### 1. あいさつ

#### 【寺嶋政策調整課長】

本日は大変お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。  
ただいまから、第2回公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査  
研究有識者懇談会を始めさせていただきます。私、司会を務めさせていただきます政策  
調整課長の寺嶋と申します。よろしくお願いたします。  
それでは、はじめに大江企画部長からご挨拶を申し上げます。

#### 【大江企画部長】

本日は、大変お忙しいところ、第2回公共施設におけるユニバーサルデザインのサイ  
ンに関する調査研究有識者懇談会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。  
さて、前回の懇談会では、ユニバーサルデザインに先進的に取り組んでおられる公  
施設や民間施設の事例紹介をいただきながら、大垣市が取り組むべき方向性等につつま  
して、委員の皆様からご意見をいただきました。  
本日の懇談会におきましては、後程ご説明があると存じますが、公共施設におけるサ  
インマニュアルの素案をいただいておりますので、これをたたき台としまして、意見交  
換をお願いしたいと存じます。誰もが使いやすい公共施設づくりに向けて、皆様の各分  
野からのご意見をいただきながらサインマニュアルの策定を進めてまいりたいと存じま  
すので、よろしくお願い申し上げます。

### 2. 公共施設におけるユニバーサルデザインサインマニュアルについて

#### 【寺嶋政策調整課長】

ありがとうございました。  
それでは、次第の「2. 公共施設におけるユニバーサルデザインサインマニュアルに  
ついて」に入りたいと思いますが、その前に、懇談会の運営方法についてでございます

が、市の関係課担当係長については、前回もご出席をいただきましたが、本日の懇談会から、意見交換に参加できるように、席の見直しをさせていただきましたのでよろしくお願いしたいと思います。担当課からの意見も反映させながら、より良いサインマニュアル（案）が作成できますよう、進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ここからの進行は、座長の鈴木誠様をお願いしたいと存じます。鈴木座長様、よろしくお願いいたします。

#### 【鈴木座長】

それでは、ただ今から私の方で進行を務めさせていただきます。岐阜経済大学の鈴木です。よろしくお願い致します。

今日は第2回ということになりました。皆様から忌憚のないご意見を頂戴しながら、サインマニュアル（案）をとりまとめてまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願い致します。

本日の懇談会は、大垣市情報公開条例の規定に基づきまして、本日の会議で個人情報など非公開とする事案がないことから、会議は公開といたします。また、この懇談会の会議録は、大垣市のホームページと市役所1階の市政情報コーナーにおいて公開されますので、よろしくお願い致します。

それでは、ここで、本日の懇談会の傍聴を希望しておられる揖斐郡池田町の五十川さん外1名の方が傍聴を希望されていらっしゃいますので、会場にお入りいただきます。

----傍聴者着席----

それでは、本日、お手元に資料を二つ用意させていただいております。

次第の表側は「公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会 次第」、裏側は「公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会 出席者名簿」、それから「公共施設におけるユニバーサルデザインのサインに関する調査研究有識者懇談会第1回議事録」です。適宜ご覧になっていただき、次回まで一通りお目通しをいただければと思います。この内容は、大垣市のホームページでも紹介してまいりますので、お知りになりたい方がお見えになりましたら、ご紹介いただければと思います。

それでは、本日の次第に沿いまして意見交換を始めさせていただきます。

本日、ユニバーサルデザイン・コンソーシアム事務局長の曾川さんから、「大垣市ユニバーサルデザイン・サインマニュアル素案」と題して、今日の意見交換のたたき台になる素案を用意いただきました。今日は午後3時半までということになっておりますので、1時間程この内容について紹介をしていただいて、その後、意見交換に入りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

【曾川委員】

はい。それでは、素案の方を見ていただきたいのですが、この資料は、私どものコンソーシアムで似たようなチェックリストを作っているものですか、他の自治体のものを参考にして作成しました。

配布資料「大垣市ユニバーサルデザイン・サインマニュアル素案」により説明

【鈴木座長】

ありがとうございました。それでは、ここで5分ほど休憩に入らせていただきます。休憩の後、ご説明いただいた資料に基づいて意見交換をさせていただきます。

----休憩 14:30~14:35----

【鈴木座長】

それでは、残りの時間を使って曾川さんからご提案いただいた素案の検討をしていきたいと思えます。

今日の素案には、重要なところがありまして、P3の「はじめに」のところは、これから市民のワークショップなどを踏まえながら大垣市でマニュアルをつくり、どんなまちをつくっていききたいのかを考えていかなければいけません。特にこれから市民の皆さんにいろいろご提案していく上で、この懇談会としては、「基本的な考え方」や「デザインの基準」に、大垣らしさを加えて市民の皆様にご提案することが必要だと強く思っています。

また、「チェックシート」のところも先程もお話がありましたように、当然そういう考え方が必要だと思います。今日は時間の都合もありますので、後程、事務局からもご提案してもらいますが、今日を除いて2回くらい行いたいと思いますので、今日のところは、「基本的な考え方」と「デザインの基準」を中心に意見交換をして、曾川さんからご提案いただきました素案が大垣市のユニバーサルデザインのマニュアルとして、よりふさわしい内容にしていくための書き込み、あるいは変更などをご提案いただけたらと思います。時間がありましたら、「チェックシート」の方にも言及していきたいと思えます。そんな手順を進めていきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

ここからは、どなたからでも結構ですので、まず、「基本的な考え方」について三つの観点以外、また三つの内容についてもご意見があればお願いします。

今日は、デザイン専門の加藤先生と建築専門の車戸先生にお越しいただいておりますので、最初にお二人からご意見をいただいて、デザイン専門の松本先生、それから関係機関の方からご意見をいただいていきたいと思えます。最初で恐縮ですが、加藤先生お願いします。

【加藤委員】

「基本的な考え方」は、もちろん、この通りだと思いますが、この中で車戸さんともお話していたのですが、言語の統一と言いますか、表記の整合性を検討する必要があるのではないかと思います。例えば、「トイレ」を「トイレ」と言うのか、「お手洗い」というのかという単純なことです。そういうことも含めて、わりと短い言葉でわかりやすく表記した方が良いのか、そういうところを意識しながら冒頭に書いてありますように、人に対する思いやりになっていけば良いと思います。

【車戸委員】

自分の経験からお話しさせていただきますが、建物の場合にどうしても我々の領域にサイン計画まで入ってしまうのですけれども、本来ならば、サイン計画は、独立してお互いに検討し合うと良いものができるのではないかと考えたことと、大垣市内のサインをレベルアップし、統一して同じ表記になるということは、大切なことだと思いました。

わかりやすさと美しさは、別の問題ですので、わかりやすいというのは基本なのですが、わかりやすいと同時に美しさというのもあるのだろうという気がしております。

それから、ユニバーサルというのとローカリティというのは、先程も地域の個性とおっしゃっていましたが、そういうものは大切にしていけるべきだろうと思います。その整合性をどうするかというのが難しいところだと思います。

前回欠席しましたので、少し私自身の経験からお話しさせていただきますと、「中山道 広重美術館」の公開コンペで選ばれた時に、「盲人ブロック」があって、そこから中に入ってインフォメーションまではよいのですが、内部の「浮世絵」が目の不自由な方にわかるような点字計画になっているのだろうかという思いがありました。とある「盲学校」のコンペでそれを感じたのですが、視覚障がい者というのは全盲とそうでない人、先天的か後天的かというのがあるのですけれども、「一つの器官が不自由になると他の器官が非常に発達するよ」、「我々健常者が先程の疑似体験をする以上に、そんなことしなくてもわかっている」と言われまして、わかっている幅がどこまでかというのが非常に難しかったことがありました。でも「手の感覚、触角は非常に鋭いよ」と言われた時に、「版木を平面ではなくて、版木を触っていただいて、1個1個それを重ねていった時にどういう絵柄になるかというのは、その人は感覚的にわかるのでしょうか」とお聞きしましたら、「多分わかるだろうが色だけはわからないだろう、そうすると色はどうするか」と言われまして、「温度差でやったらどうですか」と言いまして、点字計画を提案したのですが、「難しすぎる」ということで、結局だめになったのですが、「浮世絵」こそ、目の見えない方が見える絵なのですよね。ただ、色は赤だったら熱く、ブルーだったら冷たくしても先天的に全盲の方は色の概念はないわけですよ。

もう一つ前に戻りますが、盲学校の設計をするときに、盲学校の生徒さんがどこまで何がわかるか非常に気になりまして、一番初めの基本的なコンセプトは良かったけれど、その後プログラムを読み間違えたから、「なんでそうなるの」と言われたのですが、その時に出たのが、校舎の裏山の彼方に浮かぶ白い雲なのです。バーバリズムと言って、目

の不自由な人は平気で文章を打てるのですよね。音声もわかる。ただ、意味はどこまでわかっているかということ、校舎という概念は分かる。裏表はわかる。右左もわかる。彼方と言う概念は非常に分かりにくい。浮かぶ白い雲という言葉はわかるのですが、実態はわからない。だけど、今のこういう施設の中で、その場所まで行きましょうというサインであるならば、ある程度、視覚障がい者の方は音声を使っても、今は、比較的バーバリズムとすることができるようになってきているらしいので、それは可能のような気がします。

先程も加藤さんともお話したのですが、韓国の方で目の不自由な方は、点字の表記が違おうと思うのです。それを全部羅列するのかということ、そういう補助機能としては、目の見えない方に聴覚というのでしょうか、言葉、バーバリズムというのは存在するらしいので、それはやっていけばなんとかなるような気がします。

とにかく我々は今日、皆様のご意見をお聞きしながら、少しでも実際の日常の建築行為にサイン性というのか、ユニバーサルデザインを考えていかなければいけません。

ただ、健常者にもユニバーサルデザインというのはあると思います。4つの言語、要するに英語で言った場合、相手は健常者ですから、そのすみ分けというのでしょうか、バリアフリーの概念とユニバーサルデザインの概念の領域を少し明確にしたおいた方がよりわかりやすいと思います。だから、バリアフリーは存在していますよというフレームを作っておいて、それにプラスおっかぶせる形なのかわかりませんが、ユニバーサルデザインというのがあるのかなと思います。一部は重なるでしょうけどね。重なったところが以外とノーマライゼーションみたいな言い方になると、またあきてきちゃうものですから、統一してなるべくわかりやすくというのは可能だろうと思います。

インフォメーションまで誘導するというのと、ユニバーサルデザインとは関係ないのでしょうが、実際には、建物の機能、何のためにこの建物があるのかと考えると、内部のユニバーサルデザインは、ソフトも含めているような気がします。

人的な配置とかは、丁寧にちゃんと誘導するというのをやっていかないと難しいと思います。先程、おっしゃっていましたが、銀行のように目で見えたら行ってすぐどうぞという対応が本当は一番丁寧なのですけどね。なかなかそういうやわらかい対応ができない場合は、サイン性を使って誘導して行かざるを得ないというのはよくわかるのですけれども、そのようなところです。

【鈴木座長】

ありがとうございました。それでは、松本先生いかがでしょう。

【松本委員】

基本的な考え方についてですね。よろしいと思います。「ユニバーサルデザインの基本は人々の心である」から始まっているのが総括して意味があると思います。よろしいかと思ひます。

【鈴木座長】

それでは、市の職員の中からどなたかお願いします。

【奥村建築係長】

急な会議が入りまして、行かなければなりませんので、早めに話させていただきます。

一つは、これを整理するに当たりまして、項目については、優先順位を付けていく必要があるように思います。当然ながら既存施設になりますので、どこまでやるか、どのレベルまでやるかというところを決めなければならないのはもちろんですが、こういう時代ですので、全てを一新するというのもなかなか難しいご時世でもありますので、最終的にどこまでやるかということを決めなければいけないということになると、優先順位という意識をもって評価をしていかなければいけないと思います。

そのキーワードとなってきますのが、一つは法令です。関連法令といたしましては、ご存じの通り、「バリアフリー新法」であるとか、岐阜県でありますと、「岐阜県福祉のまちづくり条例」というようなこの内容の本幹となるような法令がございます。まず、この法令が求めている義務的なものなのか、その次の任意的なものなのかということも含めてまずは法令の求めるものか、どうなのかという位置付けを色わけにするべきということと、今回、既存施設と言う特徴もありますので、その既存施設についてどう調査するのか、ここにご提出いただいたチェックシートはもちろんのこと、それ以外にもそれぞれの特性というものがあると思います。

一つは大垣と言う地域特性であったり、あとはスイトピアセンターと市庁舎という不特定多数といたしながら、スイトピアでいうと図書館であるとか、子どもサイエンスであるとか、そういった特定の人が使う施設という位置付けもありますので、その辺りをどう評価していくか、どういう要求があるかということをつかんでいくべきかなと思います。

まずは、そのつかみ方ですが、子どもが体験してみるという方法もあるわけですが、当然ながら利用者の声というものもあるわけなので、そういう声がどういう要望があったのかということもみていくと整理しやすいのかなと思います。

また、スイトピアの特徴といたしましては、一時期に建てた施設ではありませんので、50年代の初めに建てたものから、最近でいいますと平成8年ぐらいに建てたという非常に長いスパンで建てていますので、当然ながらサインのデザインは新しいのから古くさいのまで多岐にわたっています。それを全て一新するのも一つの案でしょうが、先程申し上げたようになかなか難しいということもありますので、どこのレベルまで許容し、どこのレベルを刷新してくのかということと、先程、整合性ということも言われましたが、どの辺がこれは整合しているね、これは許せるね、という線引きもいるのかなと思いました。

もう一つ重要なのが、今度そういうものを評価して、計画を立てて、実際の工事をして刷新するというようになってくるわけですが、その後の事後評価が重要になってくると思います。時代が変われば要求もどんどん変わっていきますので、そういった意見を

どんどん取り入れて、できるだけメンテナンスをし続けるというのが重要だと思いました。

【鈴木座長】

ありがとうございました。今の点は、考え方よりむしろ、デザインの基準に関わることであるとか、チェックの項目、さらにはチェックの体制といったところにも及ぶ話でした。

それでは、森委員お願いします。

【森管財係長】

私は市役所の管財係長で、市庁舎の水漏れとか建物の管理をしています。市役所については、サインだけで案内するという立場は、そもそもとっていません。むしろ正面から入っていただくと、案内の女性がいるように、最近専任化になりました。以前、専任化していたのですが、人減らしということで、市長部局の女性が3時間交代で対応していたのですが、今年から外部に委託して、より専門性を高める形でやっています。そこから少し入っていただいて、一番お客さんの多い住民票とかの市民の窓口には、コンシェルジュを2人くらい置いています。そういった形で、サインとは逆にどんどん職員に聞いてください、というような形をとっています。実際、サインに従って進んでくださいというよりは、人で案内した方が親切ではないかと思います。

私が入庁した時には、小倉前市長が、窓口を非常に重視しておられて、あそこは市の顔だと重視されていたことを思い出します。市民の方は、お年寄りや急いでいる方が、探すより聞く方が早いということで、聞かれる場合が多いように思います。

今日も、1階の案内で救急車を呼んだということで、その状況を確認するとともに駐車場に車が置きっぱなしになっていますので、それをどうするかを市民病院とも打ち合わせが必要ですので、その対応をしていた時に、案内の女性に状況を聞こうと思ってもどんどんお客さんが来ますので、中断、中断で、たまたまその場にいた私が、まちづくり推進課にお連れしました。

そういった形で、基本的な考え方について言うと、大垣市役所はソフトをハードで補完している形です。ここでは、ハードをソフトで補完すると書いてありますが、ソフトをハードで補完するのが近いのかなと思います。

先程、車戸先生が言われたように、それが一番親切なのかなと思います。亡くなられた小倉前市長も、あの窓口については、もともとは市の職員が専任でぴったりとついていて、市長が代わられてから交代制になったのですが、実際、私も大きなショッピングモールやホームセンターはある目的をもって行くので、探すよりも「どこに売っていますか」と聞いちゃうと思うのですよね。実際聞かれる方が多いと思っています。

私は、「基本的な考え方」を市役所にそのまま当てはめられると、非常に厳しいのかなと思います。市役所としては、非常に狭い建物に沢山の人がいますし、どんどん聞いてくださいという姿勢をとっています。ちなみに前回の視覚障がい者とか聴覚障がい者に



対して、以前はどうだったのか、今はどうなのかということですが、4月1日から外部委託になりましたので聞いてきましたが、以前は視覚障がい者とか聴覚障がい者については、思い切って窓口を空にして直接その窓口にお連れするというお話でした。もしくは、空にできない時はその担当課を呼んで対応しています。それは、今でもそうですということです。

あと、そういったことがありますので、こちらの「チェックシート」ですが、ハードがソフトを補完するという形になっていますが、評価はハード中心になってしまうので、ソフト面でどれだけ言葉で補完しているのか、もしくはソフト面中心でやっているのを評価するのは非常に難しいのではないかと思います。私が一番危惧しているのは、奥村が先程言いましたが、あれを直せ、これを直せという話になりますと、市庁舎は非常に古い建物ですので、多少限界があるのかなと思います。むしろ、市役所としては人が非常に多い施設ですので、どんどん聞いてくださいということでやっています。

今、市役所に苦情のツールがありまして、電話による苦情や面と向かってもあるのですが、メールによる苦情が増えていまして、相手が全く何者かもわからない、アドレスだけが残っている、その苦情に答えるのは怖い気がします。ただ、幸い案内については親切丁寧を基本にしていますので、「案内の窓口人が非常に親切でした」、「市役所の職員が親切でした」というメールも幾つかありまして、市民の方からの具体的な苦情は、私が赴任した4月からは無いということです。その辺で、提言いただくにしても「チェックシート」には、非常に限界があるのかなと思います。「基本的な考え方」については、ソフトをハードで補完するという形に施設の特性上ならざるを得ないのかなと思います。

#### 【車戸委員】

聴覚障がい、視覚障がい、身体的障がいの方や他言語の方々のもっている悩み事みたいなものをよく理解した方が受付にいるということは、僕はそれでユニバーサルデザインだと思っていますので、人的サポートもユニバーサルデザインの一部だと思っています。ただ、その方がなるべくこういう概念をよく理解していただければ、より良いサポートができる気がします。

#### 【曾川委員】

今、おっしゃった市役所の事情はよくわかりました。ただ、これは新しい施設にも対応するというので、むしろそちらの方のことだと思います。

#### 【加藤委員】

これからの指針ですから、一時的なサポートはもちろん大切ですが、これにプラスわかりやすさが大切ですね。

【鈴木座長】

まずは、モデル的に大垣市役所を取り上げるというのが、今回の目的に入っていますので、その点からしますと、公的施設の中で最も古いものの一つに入るし、おっしゃる通り、ハード面については、時代の流れから課題は大きいだろうと思います。むしろ、ソフトを非常に重視したユニバーサルデザインへの転換を、古い施設については積極的に行っているところがあるのだということが前提で、そこを見るような、そういうものを評価するようなことが、一方では必要だと思います。そういう指摘だと捉えていいでしょうね。

このマニュアル自体は、これからのものにはとても良いと思います。

【加藤委員】

これからのガイドラインになっていくものという捉え方ですよ。

【寺嶋政策調整課長】

森係長が立場的に言われるのはよくわかります。市役所の庁舎で人的配慮を何もしていないというのは、私も市役所の職員ですので決してそのような気はもうとうありませんが、その中で、ハード面でまだ足りない面もあるでしょうし、ソフト面で車戸先生が言われたように、全ての面で理解しているのかというと、それはまだまだこれからかも知れませんが、それは真摯に受け止めながらやっていくということで、非難をしているということではありません。

それから、車戸先生がよく言われるのですが、わかりやすさと美しさのバランスというものも必要かなと思います。なんでもかんでも、あればいいのではなくて、そこは人がサポートする必要があるのかなという気がします。

【車戸委員】

今度 I AMAS が、温故知新というポスターをつくりましたよね。デザイン的には温故知新というのは変形させてよいのですが、温故知新の概念を知らない人が何語かわからなくても、デザインとしてはきれいでなのです。でも、サイン性としてわかるかという、温故知新という言葉がわかっていれば、省略してもわかる。

我々が、ユニバーサルデザインとしてのポスターをどうするかということもありますので難しいところです。

【鈴木座長】

美しさということ、例えば3に「地域特性を考慮した感性豊かなデザイン表現」というのがありますが、その美しさというあたりでは誰もが美しいと感じるものというのも大事でしょうけれども、やはり大垣市を象徴する美しさというか、アイデンティティーのある美しさ、その中でも、②の「エコロジーや周辺環境に配慮した表現や形態とする。」というあたりは、これから追求する必要があると思います。この辺は専門の車戸先生い

かがでしょうか。

【車戸委員】

統一されたサインがきれいかどうかというと、ラスベガスもひっちゃかめっちゃかさゆえに、きれいといえはきれいなのです。ローマのマクドナルドは、全部彩度も明度も落としていると思います。だから、あの中に意外と溶け込んでいるのです。そういう意味では、ローマの石の建物に合うマクドナルドは、黄色と赤は一緒なのですが、明度と彩度を微妙に変えていることで、溶け込んでいるということがあるのです。

これは難しいところですが、現在の大垣市の少なからず中心市街地においては、統一観がないので、もう少し統一して大垣らしさができる素敵なデザイン、サイン計画があればそれはそれで良いと思います。

バイパスとかの沿道は、向こうよりも目立とう目立とうということになると、どんどんおかしくなってきましたが、サインが無い方が目立つということもあるのです。いろいろありまして、大垣共立銀行さんは、あるカラーと何かだけで大垣共立銀行の文字を入れなくても分かるようにした方が、おしゃれじゃないのと言ったりするのです。

【曾川委員】

先程のマクドナルドのサインですが、鎌倉もそうですよね。色を落としています。あれも、市の条例なので、こちらもそういうものをされるのであれば、外の部分でよいかもかもしれません。

【車戸委員】

色が違っていてもマクドナルドと分かればいいのです。

【曾川委員】

そうですね。今回、わからなかったのは、建物の内部のサインマニュアルというような条件があるのですね。外にというのも、今後、含めてやっていくべきなのではないでしょうか。

【車戸委員】

外までやっていくべきでしょうね。内部をある程度固めて、なるほどとなれば、何かいい感じだったねというのがわかれば、やがて来た人たちが外の環境も作っていきますので、今回は中だけですよね。

【寺嶋政策調整課長】

今回は、施設ということですが、今、部長と話をしていたのですが、3の①の大垣市の文化の発信というところが気になります。

【曾川委員】

ここは、外もわざと戦略的に入れているのです、今後考えていくために。

【寺嶋政策調整課長】

ただ、施設の中でも、単に番号を付けるのではなくて、例えば、芭蕉の図があって番号をふれば、文化の発信をすることになりますよね。

【曾川委員】

具体的に落とし込んでいくと、そういうことも可能性はあります。それは、まさに施設との関連で、バス停にあれがあって、じゃあ施設の中にも、ということになってきますよね。せっかくやるのであれば、今後、街中のサインシステムも出てくるのでしょから、そこに繋がるような発想も入れておいた方が良くと思っています。

【鈴木座長】

施設の中と外、相通じるところで1の①というのはとても重要だと思います。施設の中だけではなくて、外で行きかう人々や、求める人たちに対して日常的に情報を提供したり、案内できる環境づくりが必要だと思います。

それでは、後藤さんお願いします。

【後藤文化振興係長】

具体的にスイトピアセンターの写真のご説明もいただいた中で、17ページの上の方に学習館、文化会館と言う館の名称があるわけですが、館の名称を示すとともに、それぞれの施設には何があるかというのは別のサインで示す必要があると思います。17ページ右下の写真で文化ホールがありますよとか、音楽堂がありますよということになってくるだろうとは思いますが、我々がサインでお示しする時に、誰を対象にお知らせすべきなのかというのをはっきり持たないと、既にご利用なさっている方々は、多分、サインはあまりご利用なさらずにその場所まで行けるとは思いますが、初めてお越しになった方々にとっては、ここに行くとなんがあるの、という部分を示すには何を優先すべきなのかということ、「基本的な考え方」を考える時に思ったところです。

【鈴木座長】

その前提として、常に利用される方を想定しているのか、常に利用される方は毎日のことなのか、月に1回なのか、おそらく後藤さんが言うように前提条件があると思います。

【後藤文化振興係長】

トイレの場所を示すにしても、場所は変わらないので、既に利用された方は、もうわかっていますので、初めて来られた方を対象に考えるべきであろうと思いますが、それ

が1の③を考えた時に、全ての人にわかりやすいデザインと地域特性を生かした表現という部分の両立の難しさを感じます。

【車戸委員】

基本的には初めて来た人が、誰もがわかるというのが必要なのではないでしょうか。

【鈴木座長】

次の「デザインの基準」に関わることにもなってきますので、ここは非常に重要なところだと思います。法令で必ず求められるという部分もありますが、その一方で大垣らしさ、独自性というものが必要な個所も多々あるわけで、これについて意見交換したいと思います。もう一度、加藤先生から、こここのところをお願いします。

【加藤委員】

最初に書体（フォント）と書いてありますが、最近、大手フォントメーカーはユニバーサル用のフォントを開発しています。ゴシック体などでも画数だとか、カタカナなどの濁点など判読しづらいところを整理して、こういう場合は、いろいろな業者とか、いろいろな方が参加されるものですから、みんなが使える書体を使うというのが前提になってくると思います。そういう意味では情報のツールのインフラ整備がされつつあるのかなと思っています。

先程からよく出ている地域らしさという問題は、行政サイドも含めて市民の方も話し合っ、私たちはこれだというアイデンティティみたいなものがクリアになってきて、それが形であるか、色であるかとか、そういう問題だと思います。大きくは先程おっしゃったように、外のところで、中はどんな方でも使いやすさみたいなことでしょうか、それを基準にしたデザイン。デザインは、目立たない、わからないから張り紙をすることの危機感からでてくると思うのです。わからないじゃないかとか、これじゃ伝わらないじゃないかとか、これって既存の表記でわかるんじゃないかという意見もあるのですが、大きく出せば良いのではなく、自然に入っていけるというような、じゃましないということも含めて、引き算の発想でデザインをしていくと、環境も整備されて、読みやすく人に親切なデザインになってくると思います。

できるだけ特記しない、わかるけれど控えている、施設内でも色のトーンをじゃましない、ちゃんとトイレに行けばわかるよというところを考えていく。それを、知恵を出して考えていくことが、環境にも配慮した新しいデザインになってくると思います。スイトピアでは、年配の方から小学生まで理解できる幅の広さ、小学校低学年から65歳を過ぎた高齢者まで同時に理解できるようなデザインシステム、そこら辺を考えていかなければいけないと思います。

【鈴木座長】

次回の時には、大垣市ではどのようなフォントがいいのか、どのようなデザイン性を

持ったフォントがよいのかなど、加藤先生から視覚情報にかかわるご提案などもいただきたいと思います。

【加藤委員】

そうですね、フォント自体にあまり個性を望まないことだと思います。誰もが読みやすくを大前提として、後は配列だと思うのです。大きさだとか、もののスペースに対する字の置き場所だとか、そういうところで美しさが表現できると思います。全部特記するのではなくて、建物全体を媒体としてどう伝えていくかを立体的に考えていくことじゃないかと。ガラス窓も一つのサインスペースであって、木も植栽なんかも一つのサインになっていこうとか、そのような考え方にしていこうということだと思います。

【鈴木座長】

そのあたりが、大垣のマニュアルの中に書き込まれていく部分になってきますので、加藤先生がご指摘になったことも踏まえてマニュアルを考えなければいけませんね。

【曾川委員】

そうですね。今、空間的な話が出ましたが、新しい施設ではそれができるのですよ。そういうプロセスをここに入れるのだとしたら、いい施設になってきますよね。本来は、サインはいらぬものかもしれないのですよ。サインはサインのみの単体ではなく、空間と融合させるようなプロセスを入れるべきだというような文言を入れるのかなと、今思ったのですが。

【加藤委員】

何でも表示しなければいけないから、何でもサインをくっつけていこうとか、案内板をそこらじゅうに貼るというのが、親切かどうかということも考えていかなければいけないのですよね。

【鈴木座長】

確かに自分の家にはサインがないですね。

【車戸委員】

我々設計士で一番いけないのは図面が読めるので、位置がわかるだろうと、他の建物に行ってもだいたいここがこうだろうとわかってしまう。そうすると、非常に不親切になるのですね。そういう意味ではサインはいるのですが、壁との関係とか、角度とか、いろんなものがあるので、先程の空間の中でのおさまりというのがあると思いますね。

【加藤委員】

サインを作る時の材質がね、アクリル板をベタベタ貼ればいいのか、そうかといって

先程出たステンレスを張ったら溶け込んで美しいのだけれど、角度によっては光で見えないということがありますので、そういうことも含めて考えなければいけない。

【鈴木座長】

大垣の場合は、南米系の人々が現在も随分いるし、これからもお見えになると思いますが。

【加藤委員】

日本語、英語、ポルトガル語、中国語、ハングル、そういうところですよ。

【車戸委員】

いや、ポルトガル語はですね、かなり企業が教育していますよ。観光客的なイメージで、要するに旅行者に対してという場合にはいるのですね。

【鈴木座長】

特に中国語、韓国語ですね。南米系の人たちも子ども達の2世になってくると、むしろ、ポルトガル語が話せなくて日本語だけという家庭も多くなっていますね。

住んでいる外国人なのか、訪れる外国人なのか、その辺を考えて基準を検討しなければいけませんね。車戸先生どうでしょう、その他にもあればお願いします。

【車戸委員】

これで十分ですが一つだけ、例えば先程の階段表示ですが、図書館も33年前に設計させていただいたのですが、設計して30年以上経っているので、その当時は、サインがないのですね。だから、バックから光を当てるようなことを考えたりしましたが、今は、メーカーから、非常灯をもつ機能というきれいなものがでてきているので、わざわざ特注で作らなくとも物を選べばよいものがあるのですね。

特に今はやさしさというのが、一つの売れ筋なものですから、そういうものは結構基準化されて、メーカーが頑張っているものもあるのです。こまめに探すと結構きれいなものもあるということで、それをプラスしてどうするかということだと思います。

【鈴木座長】

それでは、松本先生お願いします。

【松本委員】

今、加藤先生がおっしゃったように「デザイン基準」といいますと、これで良いかとも思いますが、レイアウトというのは、ここは書いていない部分だけデザイナーの力量に左右されるところだと思います。

いろいろな街に行ってみましても、基本的には一般の人を対象にサイン計画をしてい

るわけですから、全て理解があってデザインされているはずなのに、わかりにくいというところへんが、やはりデザイナーの思いこみといたしますか、若いデザイナーは特にきれいな美しさを追いすぎる気がします。

今日も駅前からうちの学校の教員と歩いて、「これわかりにくいね」と、だいたひサインを見て指摘してきたのですが、何故わかりにくいのかということをよく考えて、その目線をもっと下げなければいけない。

特に、今回のマニュアルのかなり大きい部分は視覚障がい者というのがありますけれども、歳をとった状態ですと、特に私の母親ぐらいになりますと、かなり簡単なことでもわからない。目の前にある非常に簡単な用語でもとっさの判断でわからない、ピクトグラムでも多分わからないんじゃないかと思います。

非常に低次元のレベルで、しかも洗練されたものを作る、そのぐらいの基準で中身的にはいいかと思います。

実は、半月ほど前に所用で近くに行ったついでに大田区役所に行ってきたのですが、確かにきれいでよくわかる。床にも矢印ナンバーのサインがうってありましたし、1階に3名くらいいらっしやったでしょうか、ボランティアの方たちが直ぐに来てくれました。色々なギャラリーや、いろいろな施設もあったりして、大変感じがいいと思って見ていたのですが、やっぱりそういったところでも、デザイナーのデザインしたサイン以外にもフラグ・旗が立っていたり、特別の掲示や張り紙があったり。私の課は、今これを、この期間に訴えたいというのが、ペタペタ貼ってあるので、ある意味人間的かなと思います。プラスマイナスどちらに旗を揚げていいのか、あまりにもきれいな表示で、デザイン的な宣伝と実際に運用していく場合の運用のしにくさというのが、どうしても必然的にでてくるものもあるのではないかと思います。

少し話が変わりますが、たまたま名古屋の二つの区役所を1週間の間に行った経験上、これは名古屋の区役所にも面白いところがあるなと思いました。大田区役所はおもしろいなと思いましたが、名古屋の区役所は大垣市によく似ていまして、建物もそう新しい区役所で、表示の仕方もサインの感覚もよく似ています。ソフトな部分でも、一人のお年寄りの方が、すぐ寄ってきてくださいました。

大田区役所にはない面白さが名古屋の区役所にあったのですが、市役所に入って政策調整課という掲示があつたとしますと、これは一般の人にはわからない、何をやっている所だろうと思うのですが、それがわかりやすく書いてあつたのが名古屋市なのです。

例えば母子手帳はここへとか、何とかの手続きは、とか、何々課という表現ではなく、こういったような文章表現というのも大事なかなと思いました。そういう意味では、名古屋市の区役所の方が分かりやすいかなと思いました。

それ以外は太田区役所の方が上かな。

#### 【鈴木座長】

そのあたりは、「デザインの基準」に関わってくることもかもしれませんね。では、森さんと後藤さんから4ページから7ページあたりの範囲で、それぞれにご意見をいただき



たいと思います。

大垣市のこれからの「サインマニュアルの基準」についての構成とか、内容について、ご説明をいただきましたが、これはあくまでもたたき台ですので、これにはない観点などについてご提案があればお願いします。

【森管財係長】

これをそのまま、例えば4か国語を原則とするとかは、とてもじゃないけど難しいのかなと思います。ただ、一つ考えているのは、来年、授乳室を整備するというのが、大きなテーマとしてありますので、その時にはピクトグラムを調べて、昔は哺乳瓶のマークだったそうですが、今は抱っこしているお母さんのマークが新しいマークらしいので、しかも先程誰か言われたように、隣に授乳室と書かないとやはりわからないので、そういったものは整備していこうかと思っています。まあ、新しいものをつくる際にはそうなると思いますが、来年予定しているのは授乳室です。もちろん、市役所にはそういった部屋がないものですから、授乳室兼相談室とか、授乳室兼子育て支援部長室になっています。今でも部長室が第2授乳室として使われています。そういった形で新しいものを作る際には参考になると思います。

【鈴木座長】

それでは、後藤さんいかがですか。

【後藤文化振興係長】

今、「チェックシート」をざっとみていたのですが、障がい者の方々にどのようなサインを設けるとわかりやすいかという視点は多く書いてあるのですが、先程のスイトピアみたいに高齢者の方から子どもまでという部分で、同じサインで伝えることができるのかということの難しさですよね。例えば、スイトピアを対象にワークショップなどで、この場所にはこれがあるというチェックなんかをした時に、対象者がまた違うと同じ内容のものを幾つも表示しなければいけないものなのかなという点は、非常に難しいかなと思うところです。

【加藤委員】

今おっしゃったのは、大体、基本的な言葉というのがあるじゃないですか。それで統一しながら、松本先生がおっしゃったように大事なことだけインフォメーションで貼りだすとか、一旦使う側の言葉に置き換えてみるというのが大事だと思います。市役所の要望だけじゃなくて、例えばスイトピアで展覧会をやっているとか、博物館みたいな科学館的機能があったりとか、音楽会があったりとか、そういうイベントによって告知とか、インフォメーションする場所をきちんと作っておいて、そのためのインフォメーションはそれでしていく、そうすると対象者が明確になってくるのですよね。使われる方、利用する側の日常会話の言葉に変えていくことだろうと思います。

ただ、施設の表示は共通だと思うんです。これは、ユニバーサルというのは、どちらかというグローバルな、何処へ行っても通じる言葉に落ち着くんじゃないかなと思います。東京であろうが、大垣であろうが、同じであるべきということですよね。極端な言い方をすれば、英語表記であれば、訳せばアメリカであっても日本であっても、同じということじゃないかなと解釈ができます。ただ、イベントをやったりする時の告知はちゃんとその対象者に向けてとか、地域性だとかを踏まえてメッセージしていくことじゃないかなと思います。だから、目的によって表記が違ってくるといえることがあると思います。

【後藤文化振興係長】

そうですね、子どもさんが使われる時の表示はスイトピアにはあると思うのですが、それがお子さんを対象とした科学館だよという言い方は、多分どこもしていないはずなので、そういうのがないと子ども達には伝わらないのだろうなと思います。

【加藤委員】

あれは、わりと小学生対象で大垣の水だとか、そういうのをわかりやすく表記、体感するというふうにしてあるので、そういうことがちゃんと目的として書かれていた方が良いと思うし、そういうことじゃないかなと思います。

【鈴木座長】

ありがとうございました。

それでは、そろそろ時間になってきましたので、それぞれご意見いただいた部分は、曾川さんの方で書き直す上での参考にしていただき、議事録も後日お届けしますので、それも参考にして、一度再検討をお願いいただけますか。

【曾川委員】

メールでもいただければ、ありがたいです。

【松本委員】

嗅覚情報というのは、どんなものでしょう。行政サービスとしては難しいかなと思いますが。

【寺嶋政策調整課長】

嗅覚情報というのは、難しいかなと私も見ていました。ニュートラルに考えればそういうのもあると思うのですが、松本先生が言われたように、そこが心配です。

【鈴木座長】

既存施設の機能をこれから変更していく可能性があるのか、新たな施設として何が必

要なのか、その辺を考えていく中で、今あるもので、今ある機能でと考えていくと、当面これは無くてもいいだろうとなっていくと思うのですが、そのあたりどうでしょうね。

【寺嶋政策調整課長】

新しい手法として、あるのかなという気はしますが、検討課題としたいと思います。

【松本委員】

行政というのは、そんなにエネルギーをかけないで、整理する組織が一番いいと思いますが、サービスすると民間のレベルになっていきますしね。五感に訴えるという点では非常に良いと思うのですが、ここまでやると、このレベルで行政が要求された時に、このマニュアル以外にも、もっと細かい部分が出てくるのではないかと思います。

【鈴木座長】

大垣市の公共施設も指定管理者制度を導入して、施設の管理は行政だけれども、その運用については、民間の手法とかアイデアでもってやっていくとなると、接客のこととか、今の嗅覚とか、サービスに関わって民間のノウハウを使ってということですよ。そうすると、行政が管理をして運用するのではなくて民間のノウハウで運用していくとなると、必ずこういう観点が出てくると思うんですよ。

【寺嶋政策調整課長】

今まで行政にない発想です。私は全く否定しませんけれど、具体的な方法があるのかなと思いました。

【車戸委員】

先程の盲学校の時に、「アプローチだけ匂いが出る木を植えよ」と、「ただ風向きが違った時に困るよ」という話があるわけですよ。だから、なかなか難しくてね。サイン性の匂いなのか、心地よいという全体の匂いなのか臭覚は気をつけないと、サイン性の匂いというのは難しいですよ。

【松本委員】

もっとも原始的なセンスですしね。

【寺嶋政策調整課長】

否定しているわけではないのですが、少し心配です。

【鈴木座長】

この辺は、具体的な情報をもとにして検討しましょう。

【車戸委員】

おもしろいアイデアが出ればよいのですが、出ないかもしれない。

【鈴木座長】

大垣市のマニュアルとしては、どうかというところですね、水の匂いかな。

それでは、時間がきましたので、今日はこれまでということにして、今回は「チェックシート」に関わるようになります。

実際に、これから公共施設などを、色々な方たちに観ていただき、改善提案とかチェックシートの中身をチェックしていただいて、その辺りのところを次回もう一度検討していきたいと思っています。お渡しした資料は、是非次回お持ちいただきたいと思います。

では、次回について事務局からお願いします。

【寺嶋政策調整課長】

長時間にわたりましてご議論いただき、ありがとうございました。

それでは、本日の懇談会を以上で終了させていただきますが、次回以降の日程を早めに調整していただきたいと思ひまして、事務局の勝手な思いなのですが、しばらくご意見をいただく時間も必要かと思ひますので、次回懇談会は10月18日の10時から12時までを考えております。万障お繰り合わせの上、ご参加いただければと思ひます。

それ以降につきましても候補日を申し上げますと、最終まとめということで、11月1日の10時から12時を考えております。それから、市民参加のワークショップに入りたいと思ひます。

ワークショップというのは、「チェックシート」等を踏まえて、市役所本庁舎とスイトピアセンターを市民参加で回ってみようと。市民参加ということになりますと、平日なかなか難しいものですから、11月13日の土曜日、それで、できたら午前10時から3時までということで、午前中は鈴木先生と曾川さんからご講演いただくような形で、鈴木先生にはユニバーサルデザインのまちづくりについてご講演をいただきながら、曾川さんに先日やっていただいた形で、先進事例のご紹介をいただくというものです。午後に市役所の中をワークショップ回ろうと思ひます。

それから、スイトピアセンターについては、11月23日、これは祝日ですが、この日をお願いしたいと思ひます。

【車戸委員】

11月23日は、第30回大垣市文化連盟祭があります。

【後藤文化振興係長】

文化ホールの方は使いっぱなしですね。

【車戸委員】

私もこれは、出席しないといけない。

【寺嶋政策調整課長】

それでは、スイトピアセンターについては、また別の日で調整をさせていただきたいと思えます。そこで、有識者懇談会とワークショップを一区切りさせていただいて、12月から最終の取りまとめをさせていただいて、1月にもう一度お集まりいただければと思えます。そこで、最後の会議とさせていただきます。

【鈴木座長】

懇談会、つまりこの委員会については、あと2回ですね。

【寺嶋政策調整課長】

そうです、10月18日と11月1日です。

【鈴木座長】

その後、一般の市民公募を行いまして、障がいを持っていらっしゃる方とか、学校の先生、小学校の先生など、そういう方たちを主として20名くらいお集まりいただいて、今回作られる素案を皆さんにご紹介いただいて、こういう内容で大垣市は考えていきたいのだけれども、どうだろうという幅広いご意見をいただいて、それを参考にして、修正すべき箇所があるかどうかを明確にしていきたい。

それを一つの事例として、市役所とスイトピアセンターをヒントにしながら、市民の皆さんが考える題材にしていきたいと思えます。ですので、そのワークショップは加藤先生、曾川先生はもしご都合つかなければ、ご連絡ください。

それを踏まえて1月に最終のまとめをしなければいけませんので、その間に個々でご相談をさせていただくことがあると思えますし、1月の委員会は、また、日程調整させていただきます。

【寺嶋政策調整課長】

それでは、第3回を10月18日の10時からということで、また、ここ2階の第1会議室で開催させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、どうもありがとうございました。

閉会（15時40分）